

地域医療連携室

フレンディーだより

Community medicine cooperation room



院内講演会「筋萎縮性側索硬化症患者に対する
予後告知と呼吸器症状の対応」(H25.4.24)



2013

vol.43

H25.5 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

病院長に就任して



院長 竹田 慎一

本年4月1日より黒部市民病院長という重責を担うことになりました。平成元年に当院に赴任して以来、高桜名誉院長、新居前院長、下新川郡・魚津市医師会の先生方から受けましたご指導に大変感謝いたしております。

当院は初代院長の草野久也先生の遺訓「日々念心」を病院憲章と定めておりますが、今回院長就任にあたり、5つの基本方針を立てました。

1. 新川医療圏の基幹病院として地域の医療・保健・福祉施設と連携

本年3月電子カルテの入れ換えを機会に「新・扇状地ネット」を稼働させました。これにより当院カルテを閲覧する機能に加え、予約の取得、紹介状・返書の管理が可能となりました。さらに利用範囲を医科診療所以外に歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、リハビリ療法士の方々への拡大を予定しています。これまで築き上げてきた「顔の見える連携」を、ICTを利用してさらに発展させていきたいと考えています。

2. 5疾病5事業の拠点として機能強化

当院は新川医療圏の2次救急病院として365日、24時間すべての救急搬送患者を受け入れており、さらに新川医療圏の小児急患センターを併設しています。このほか地域災害医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院などの指定を受け、富山県医療計画においてその責務を果たしています。今後ともこれらの機能強化に努めてまいります。

3. 患者さんを中心に、家族、全医療スタッフが参加したチーム医療

がん医療、終末期医療において患者さんの意思を尊重し、家族、病院・関連施設的全スタッフが関わった医療の実践が目指されています。当院でも専門職種間の垣根をなくして情報と意見交換を行い、真に患者さんのための医療を推進していきます。

4. 病院スタッフのワークライフバランスの推進、教育・研修機能の充実

当院は海外交流事業、屋根瓦方式の指導など、医師の初期臨床研修制度が高い評価を受け、平成25年度は基幹型7人の募集に対し100%のマッチング率を達成することができました。また、全職種の技術・知識の向上を目指して教育・研修に力を注いでおり、さらに、患者さんばかりではなく、職員にも優しい環境づくりに努めています。

5. 経営の効率化と健全経営

当院はこれまで黒字経営を続けてきました。黒字経営は診療機器の新規購入、職員の教育には非常に重要であり、今後も経営の効率化を図り、黒字を継続していきたいと考えています。

全職員がこれらの目標を共有し、地域の皆様にとってより良い病院を目指し努力していく覚悟です。今後とも皆様方のご指導、ご助言をよろしく願いいたします。最後になりますが、当院は現在病院外来棟などの増改築工事を行っており、平成25年10月には併設の介護老人保健施設「カリエール」が80床に増床、平成28年度には新外来棟がオープンする予定です。また、リニアックの入れ換え工事も進行中で、地域の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。ご協力の程よろしく願いいたします。

「脳を守る」



脳神経外科部長 栗本 昌紀

以前わが国の死因の第1位であった脳卒中は、塩分摂取の減少、たんぱく質摂取の増加、降圧治療の普遍化によって減少し、現在は死因の第3位になっています。しかし一旦脳卒中になると、他の病気に比べて入院期間が長く、リハビリを行っても後遺症が残り、介護を要する疾患の第1位を占めています。今回、「脳を守る」すなわち脳卒中にならないために必要な心がけと一旦なってしまった脳卒中の治療について話します。

「脳を守る」ために必要な第一のことは、高血圧の予防あるいは治療です。脳卒中の最大の危険因子は高血圧であり、1次予防でも2次予防でも血圧のコントロールが最も重要です（エビデンスレベル：グレードA）。本年3月に国立がん研究センターから報告された脳卒中リスクの簡単なスコア化方法をみても、高血圧、男性であることと55歳以上、が高いスコアになっています。その他に脳卒中の危険因子としては、糖尿病、高脂血症、喫煙、非弁膜症性心房細動、アルコールの多飲などが確認されています。これらはいずれも治療できるあるいは改善できるリスク因子です。心当たりのある方は55歳以上になったら脳ドッグを受けるか、あるいは脳神経外科、神経内科を受診し、脳MRIとMRAを同時に撮ってもらうことをお勧めします。無症候性脳梗塞や頸動脈の狭窄、未破裂脳動脈瘤などが見つかり、未然に脳卒中を防ぐことが可能になります。

さて一旦脳卒中になってしまった場合の治療法です。病型にもよりますが、最も多い脳梗塞では発症4時間半以内では血栓溶解剤であるr-TPAの使用の適応があります。

r-TPA使用群の脳梗塞患者の3カ月後の転帰良好例は有意に増加するエビデンス（グレードA）があります。脳出血では血腫除去術や脳室ドレナージなどの脳外科的処置が必要な場合が少なくありません。クモ膜下出血では従来行われている脳動脈瘤クリッピング術に加え、「切らずに治す」脳血管内手術で瘤内コイル塞栓術が行われています。黒部市民病院では脳外科医4名と神経内科医1名の常勤医がおり24時間態勢で脳卒中の急性期治療を行っております。

リスクスコアによる脳卒中発症確率の算出方法		The Aeshi Shinbun	
年齢(歳)	点数	血圧	点数
40~44	0	降圧薬内服なしの場合	
45~49	5	<120/80	0
50~54	6	120~129/80~84	3
55~59	12	130~139/85~89	6
60~64	16	140~159/90~99	8
65~69	19	160~179/100~109	11
肥満度(BMI)	点数	180~/110~	13
<25	0	降圧薬内服中の場合	
25~<30	2	<120/80	10
30~	3	120~129/80~84	10
性別	点数	130~139/85~89	10
男性	6	140~159/90~99	11
女性	0	160~179/100~109	11
喫煙	点数	180~/110~	15
男性の場合	4	点数を合計する	
女性の場合	8		
糖尿病	点数		
あり	7		

10年間で脳卒中を発症する確率	
合計点数(点)	発症確率(%)
10以下	1未満
11~17	1~<2
18~22	2~<3
23~25	3~<4
26~27	4~<5
28~29	5~<6
30	6~<7
31~32	7~<8
33	8~<9
34	9~<10
35~36	10~<12
37~39	12~<15
40~42	15~<20
43以上	20以上

平成25年度 新任医師紹介



麻酔科



部長
やまだまさな
山田正名
専門：臨床麻酔

外科



医員
まきたなおき
牧田直樹
専門：消化器外科
内視鏡外科



医員
くらたとおる
倉田徹
専門：消化器外科

内科



医員
おおはまたづこ
大浜多鶴子
専門：腎臓疾患
膠原病



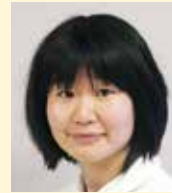
医員
まつうらしんたろう
松浦伸太郎
専門：循環器疾患



医員
まつかわひろき
松川弘樹
専門：消化器内科



医員
てらさきとしはる
寺崎敏治
専門：呼吸器疾患



医員
なみきゆうこ
並木佑子
専門：腎臓疾患

産婦人科



医員
つだけい
津田桂
専門：産婦人科一般



医員
かごまこう
鹿見山浩
専門：産婦人科一般

小児科



医員
くらもとたかし
倉本崇
専門：小児科一般



医員
みやおなりあき
宮尾成明
専門：小児科一般

耳鼻咽喉科



医員
ひらいのぶゆき
平井信行
専門：耳鼻咽喉科一般

放射線科



医員
まつぼろたかし
松原崇史
専門：放射線科



臨床研修医1年生



木崎一葉



才津義亮



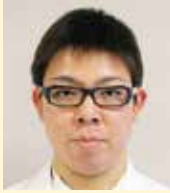
生水貫人



谷真智子



天満雄一



盛田真弘



米澤 淳



熊谷泉那



澤田香織



辻大祐

トピックス

院内講演会「筋萎縮性側索硬化症患者に対する予後告知と呼吸器症状の対応」

当病院では今年度「医の倫理」について考える機会として「がん以外の寛解困難な病にどう立ち向かうか」をテーマに講演会を4回予定しています。

1回目は平成25年4月24日水曜日17時15分から「筋萎縮性側索硬化症患者に対する予後告知と呼吸器症状の対応」の演題で神経内科新井裕一先生が講演を行いました。関連病棟を含め院内55名のスタッフ（医師・看護師・臨床工学技士・介護福祉士など）が参加し、熱心に受講しました。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）の症状や経過、病名告知、そしていずれ来る自分の意思で体を動かさない終末期についての説明、その時の患者・家族の思い、医師の思いについて話がありました。患者への説明は患者の知る権利と知りたくない自由を尊重し、伝える内容が残酷であっても、伝え方が残酷であってはならない（Jansen）を用い、家族とともに具体的な経過を伝えているそうです。具体的な経過のなかには経管栄養や人工呼吸器の装着の希望、緊急時の対応についても含まれます。今回の研修では、在宅人工呼吸器療養を選択する患者さんには多くのネットワークで在宅の生活を支え、人工呼吸器装着を希望しない患者さんには終末期に寄り添う新井先生の姿や患者さんを支えるスタッフがいることを知りました。

今後、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科医師の講演も予定しています。

お知らせ



●医師の異動（3月31日、4月1日付）

診療科	転出	転入
内科	小黒真希子 上川康貴 原田智也 西川智貴	大浜多鶴子 松浦伸太郎 松川弘樹 寺崎敏治 並木佑子
外科	芳炭哲也 名倉慎人	牧田直樹 倉田徹
産婦人科	新居隆 福田香織 小野洋輔	津田桂 鹿児島浩
小児科	和田拓也 平岩明子	倉本崇明 宮尾成
泌尿器科	飯田裕朗	
耳鼻咽喉科		平井信行
麻酔科	野原明美	山田正名 本江純子（囑託）
放射線科	杉盛夏樹	松原崇史

●慢性腎臓病看護外来開設

慢性腎臓病看護外来を4月24日に開設しました。腎臓病の重症度に応じて、腎症と生活行動との関連の説明、具体的な療養行動の相談、セルフモニタリング指導、腎代替療法の説明を行います。当面は、腎臓内科医からの依頼患者様に対して相談、指導をします。

＝慢性腎臓病看護外来＝

日時：第2・4水曜日 9時～12時30分

場所：西病棟2階家族控室

担当看護師：草切（透析看護認定看護師）

講演・勉強会のご案内

1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日

午後6：30～

午後8：00

場所：本館3階 指導室

2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日

午後6：45～

午後7：45

場所：本館3階 指導室

3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日

午後6：40～

場所：本館3階 指導室